

「愛国婦人」文芸関係主要記事（一）

上田正行 編

「愛国婦人」は愛国婦人会の機関紙として明治三十五年三月二十七日に創刊された。四六判四倍形（いわゆるタブロイド判）八ページ、毎月二回発行。発行所は愛国婦人発行所（東京市麹町区下二番町三七番地・大日本女学会内）、発行兼印刷人は山沢俊夫、編輯人は手島益雄であった。その後、発行所は麹町区飯田町一丁目（牛ヶ淵公園）に移り、大正七年には発行人八田一精、編輯印刷人竹内貞三に代り、昭和になると竹内貞三が発行人・印刷人を兼ねる。初め新聞紙の体裁で四六三・四合併号（大9・12・21）まで続くが、四六五号（大10・1・1）より雑誌となり毎月の刊行となる。国会図書館所蔵の雑誌は五九四号（昭6・10）までであるが、これが終刊か否かは不明である。昭和七年四月より大判に装いを改めて雑誌が再刊されるので、一次の雑誌の終刊は昭和七年にずれ込むのかも知れない。

この「愛国婦人」の発刊母体となった愛国婦人会は、言うまでもなく奥村五百子を中心となって明治三十四年三月二日に設立された。『国史大辞典』一卷（昭54・3 吉川弘文館）には「軍事援護事業

を目的とする日本近代の婦人団体」とあるが、創立時の「愛国婦人会規則」では第一条に「本会は戦死者及び準戦死者の遺族を救護する事、及び重大なる負傷者にして、廃人に属する者を救済するを以て目的とす」と謳っている。初代会長に公爵岩倉具定夫人久子を選び、総裁に閑院宮戴仁親王妃智恵子を迎えたことでも分かるように、皇族、華族の上流婦人を中心とした愛国、報国運動が出発点であったと言える。昭和十七年二月、政府主導で大日本婦人会に統合され、同五月に大政翼賛会の傘下に入ってその活動を終えた。従って、明治以降の国家戦時体制下にあつて一定の役割を果たしたことは言うまでもない。今回は「愛国婦人」のそのような性格もさることながら、主に文芸記事を中心にこの雑誌の意味を探ろうと関係記事を拾ってみた。新聞紙形態の四六三・四合併号までであるが、筆者の主観で取捨したので拾った記事に偏りがあるのは否めない。作成に当たっては国会図書館所蔵のものを使用した。

第一号 (明治35・3・27)

社説 愛国婦人発行の辞

山沢 俊夫

祝辞 こたび我会の機関新聞発行につき聊か希望を述べて祝辞に

代ふ

岩倉 久子

祝歌 岩倉久子、一条悦子、近衛貞子、島津田鶴子、大谷章子、

小笠原秀子ら

近衛 篤麿

「愛国婦人」の発刊を祝す

三輪田真佐子

第二号 (明治35・4・10)

社説 家庭に於ける童話の効用 其一

愛国婦人伝 和氣広虫の伝

四号まで

鶯花 女史

第三号 (明治35・4・25)

論説 英国の家庭教育(其一)

一〇号(其六)まで

下田 歌子

童話 大黒天の鼻の孔

有賀多賀子

第四号 (明治35・5・10)

演説 評議員鳩山夫人の演説

第五号 (明治35・5・25)

愛国婦人伝 神功皇后

下田 歌子

第六号 (明治35・6・10)

童話 鶴のまねをする鳥

月廼舎かつら

愛国婦人伝 孝女村岡の伝

七、八号

下田 歌子

第九号 (明治35・7・25)

愛国婦人伝 倭姫命

下田 歌子

童話 魚の遊戯

月廼舎かつら

第十号 (明治35・8・10)

童話 金時の力負

稚松生

第十一号 (明治35・8・25)

愛国婦人伝 弟橘媛命

下田 歌子

第十二号 (明治35・9・10)

童話 ゴーボツン

月廼舎かつら

第十三号 (明治35・9・25)

童話 鼠の生活

稚松生

第十四号 (明治35・10・10)

愛国婦人伝 上毛形名妻

下田 歌子

第十五号 (明治35・10・25)

童話 子より若い親

月廼舎かつら

愛国婦人伝 吉田松陰の北堂

下田 歌子

第十六号 (明治35・11・10)

童話 伶俐な蛙

藤廻舎

第十七号 (明治35・11・25)

童話 珍しい桃

みどりの舎

愛国婦人伝 松尾多世子の伝

下田 歌子

第十八号 (明治35・12・10)

童話 鴛と鼠

下田 歌子

第十九号 (明治35・12・25)

童話 天子様の處方箋

連山人

第二十号 (明治36・1・25)

愛国婦人伝 有村蓮子の伝

巖谷 小波

第二十一号 (明治36・2・10)

童話 強い太郎さん

下田 歌子

第二十二号 (明治36・2・25)

童話 強い太郎さん

香洲生

第四十二号 (明 36・11・25)

童話 美しい花

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第六十号 (明 37・8・20)

史伝 平陽公主

下田 歌子

第四十三号 (明 36・12・10)

童話 鳩

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第六十一号 (明 37・9・5)

史伝 女大王 (井上河内守の内室)

須藤 求馬

童話 カナリヤ鳥

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第六十二号 (明 37・9・20)

童話 漁史と魚盗人

巖谷小波関

高階柳蔭訳

第四十四号 (明 36・12・25)

教訓童話 金剛石の指環

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第六十三号 (明 37・10・5)

小説 白骨

中村 春雨

童話 鏡

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第四十七号 (明 37・2・10)

童話 牝牛

巖谷小波関 高階柳蔭訳

史伝 処世の武芸 (堀川主水妻美代女)

中村 春雨

第四十八号 (明 37・2・25)

童話 反響

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第六十四号 (明 37・10・20)

小説 のこる哀 六五号まで

堀内 新泉

第四十九号 (明 37・3・10)

童話 鸚鵡

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第六十五号 (明 37・11・3)

散文 夕の星に

片上 天弦

第五十号 (明 37・3・25)

戦時に対する婦人の覚悟

鳩山 春子

第六十六号 (明 37・11・20)

勤王女丈夫若江秋蘭女史伝

須藤 求馬

戦時に於ける婦人の覚悟

童話 隣の桜

巖谷小波関 高階柳蔭訳

第五十三号 (明 37・5・5)

史伝 フロレンス公コムモス一世の妃エレノルの伝

下田 歌子

史伝 武士気質 (内田兵庫妻)

須藤 求馬

童話 牧童

巖谷小波関 高階柳蔭訳

小説 我祖父

中村 春雨

第五十八号 (明 37・7・20)

史伝 延政門院

下田 歌子

第六十八号 (明 37・12・20)

史伝 武俠婦人 (留守の妻)

須藤 求馬

第六十九号 (明 38・1・1)

小説 春の姿

第七十号 (明 38・1・20)

小説 わが身

第七十一号 (明 38・2・5)

武士気質 (老夫婦)

第七十二号 (明 38・2・20)

小説 まご、ろ

老婦の胆力 (笹山吉之助祖母)

詩 春に (西詩より)

第七十三号 (明 38・3・5)

小説 きざらぎ

第七十四号 (明 38・3・20)

小説 渡守の娘

少婦狼を捕ふ (信濃の男婦)

第七十五号 (明 38・4・5)

小説 梅の客

関智三母

小説 紳士

詩 鏡喩

第七十七号 (明 38・4・20)

小説 我が家の春

下女の鑑

中村 春雨

堀内 新泉

須藤 求馬

中村 春雨

須藤 求馬

波心生

堀内 新泉

中村 春雨

須藤 求馬

堀内 新泉

須藤 求馬

中村 春雨

平木 白星

堀内 新泉

須藤 求馬

第七十八号 (明 38・5・5)

小説 巡査

献身諫夫

第七十九号 (明 38・5・20)

寡婦鑑 (商家の主婦)

第八十号 (明 38・6・5)

小説 銃と櫛

武家庭訓 (佐竹修理太夫義隆夫人)

第八十一号 (明 38・6・20)

軍国婦人

詩 戦傷卒

第八十二号 (明 38・7・5)

小説 繻帶草紙

女子の声

第八十三号 (明 38・7・20)

小説 小愛国者

第八十四号 (明 38・8・5)

小説 紀念の写生

新田妙印尼

第八十五号 (明 38・8・20)

小説 初秋

怪力の子

第八十六号 (明 38・9・5)

小説 わかれ

在戦地三等軍医正

中村 春雨

須藤 求馬

須藤 求馬

巖谷 小波

須藤 求馬

須藤 求馬

飯島 甲山

須藤 求馬

若草沢

江戸 静川

須藤 求馬

堀内 新泉

須藤 求馬

武田 桜桃

戦国の勇婦 (善祐尼)	須藤 求馬	活動の清泉	女子学院長	矢島 楯子
第八十七号 (明 38・9・20)		小説 廃兵の妻		武田 桜桃
小説 墓参	流川生	第九十八号 (明 39・2・20)		三島 霜川
第八十九号 (明 38・10・5)		小説 二つの人形		
小説 天の使	生田 葵山	第九十九号 (明 39・3・5)		武田 桜桃
後藤庄三郎妻	須藤 求馬	小説 同情袋		三島 霜川
第九十号 (明 38・10・20)		坊やの古足袋		
小説 花売	武田 桜桃	第一〇〇号 (明 39・3・20)	岩野泡鳴作歌	山田源一郎作曲
第九十一号 (明 38・11・3)		詩 舊の夢		三島 霜川
小説 凱旋	武田 桜桃	小説 楽人		江戸 静川
妙閑尼	須藤 求馬	愛国文壇 美哉日本		
第九十二号 (明 38・11・20)		第一〇一号 (明 39・4・5)		三島 霜川
小説 名工の妻	堀内 新泉	小説 鳩のお墓		
第九十三号 (明 38・12・5)		小説 小魔の奏功 (上) 一〇二号 (下)	トルストイ著 若草訳	
小説 逝く年	武田 桜桃	第一〇三号 (明 39・5・5)		三島 霜川
第九十四号 (明 38・12・20)		小説 銀杏若葉		生田 葵山
小説 花屋のお花	三島 霜川	小説 隣の家		高階柳蔭訳
第九十五号 (明 39・1・1)		童話 小さい籠細工	巖谷小波関	
童話 桃太郎物語		第一〇四号 (明 39・5・20)		三島 霜川
和歌 (戦後新年)		小説 初夏の光		徳田 秋声
第九十六号 (明 39・1・20)		第一〇五号 (明 39・6・5)		岩野 泡鳴
小説 新年の河		小説 螢のゆくへ		三島 霜川
第九十七号 (明 39・2・5)		詩 君がえみ 谷水		
枯れたる頭に新らしき福音	東京市長 尾崎 行雄	蟻の軍勢 (上) 一〇六号 (下)		

第一〇六号 (明 39・6・20)	愛国文壇 秋のほひ	人見 東明
小説 想思曲		
第一〇七号 (明 39・7・5)	第一一三号 (明 39・10・5)	
小説 巢立	東西名婦伝 小野寺丹子	須藤 求馬
子供倶楽部 鼠の順札	子供クラブ 菊日和	三島 霜川
第一〇八号 (明 39・7・20)	愛国文壇 葉ずれの音	松原 至文
詩 孤寂	和歌 山鳩 (八首)	佐々木信綱
小説 帰省	第一一四号 (明 39・10・20)	
子供倶楽部 檻の獅子	詩 応接間	岩野 泡鳴
第一〇九号 (明 39・8・5)	小説 若き母	生田 葵山
小説 新婚旅行	東西名婦伝 プラウニング夫人	人見 東明
東西名婦伝 了然尼	子供クラブ 蝶のお墓	江戸 静川
子供倶楽部 雀合戦	愛国文壇 秋の寄手	松原 至文
第一一〇号 (明 39・8・20)	第一一五号 (明 39・11・3)	
東西名婦伝 ゲーテの妻	黄菊白菊	江戸 静川
子供倶楽部 鳩の花束	東西名婦伝 ヱイマー侯妃(上)	原 篠川
第一一一号 (明 39・9・5)	子供クラブ 眼白物語	笠間 酔雨
東西名婦伝 高島竹雨女史	第一一六号 (明 39・11・20)	
子供倶楽部 鴉勸左衛門	詩 枯れ葉	岩野 泡鳴
愛国文壇 鳩吹	小説 落葉	一ノ瀬はつ子
第一一二号 (明 39・9・20)	子供クラブ 秋の蝶	三島 霜川
東西名婦伝 ゲーテの母	愛国文壇 暮秋日記	松原 至文
子供クラブ 亀子さん	第一一七号 (明 39・12・5)	
子供クラブ 動物園の此の頃	きさらぎ	西村 酔夢
	子供クラブ 燕塚	江戸 静川

愛国文壇 歌合せ

第一一八号 (明39・12・20)

小説 春風

東西名婦伝 土肥実平の妻

子供クラブ 子供の祈念

愛国文壇 霜柱

第一一九号 (明40・1・1)

小説 新曙光

東西名婦伝 ドロセア嬢

子供クラブ 新年宴会

詩 初日の出

詩 姫君 (プリンセス)

第二二〇号 (明40・1・20)

小説 母の面影

子供クラブ 鷺坂

愛国文壇 春の旅

第二二二号 (明40・2・5)

小説 如月

東西名婦伝 シルレルの母

第二二三号 (明40・2・20)

小説 夏

孝子かつ女

愛国文芸 文芸と安心

子供クラブ 猫物語

松原 至文

第二二三号 (明40・3・5)

小説 女教師

アンネンスカヤ女史

子供クラブ 舊いお友達

愛国文壇 愛情の尊敬 (上)

号、一二五号

第二二四号 (明40・3・20)

小説 臘夜

東西名婦伝 墨染桜

詩 花の跡

子供クラブ 象の仇討

第二二五号 (明40・4・5)

子供クラブ 東風と南風

第二二六号 (明40・4・20)

詩 鐘の音

小説 守唄

子供クラブ 十六日桜

第二二七号 (明40・5・5)

東西名婦伝 今川氏親夫人中子

子供クラブ 鷺児鳴

第二二八号 (明40・5・20)

子供クラブ 藤棚会議

第二二九号 (明40・6・5)

虚飾を斥け修養せよ

西村 酔夢

人見 東明

三島 霜川

片上 天弦

森田 竹子

須藤 求馬

岩野 泡鳴

江戸 静川

松原 至文

人見 東明

相馬 御風

江戸 静川

須藤 求馬

松原 至文

江戸 静川

須藤 求馬

松原 至文

江戸 静川

江戶 静川

三宅 花園

小説 残むの花
 子供クラブ 董と雨
 詩 野鷲
 故中島女史
 第一三二号 (明40・7・5)
 童話 馬の春衣 一三二号
 第一三三号 (明40・7・20)
 詩 夏日
 子供クラブ 「コーデリア」の性格
 野村望東尼の歌
 七人の娘 (ウオーツウオース作)
 第一三三三号 (明40・8・5)
 小説 軽井沢
 第一三四号 (明40・8・20)
 子供クラブ お花の古着
 俳句修業の心得
 第一三八号 (明40・10・20)
 詩 楽堂
 第一四二号 (明40・12・5)
 (海のあなた) 米国婦人の長所 (上)
 小説 寄宿人
 第一四二二号 (明40・12・20)
 小説 暗き影
 子供クラブ 義勇奉公

三宅 青軒
 晩花
 野口 雨情
 三宅 夏子
 巖谷 小波
 野口 雨情
 片上 天弦
 佐々木信綱
 青山 繁沢
 幸田 露伴
 巖谷 小波
 内藤 鳴雪
 服部 嘉香
 佐藤 迷羊
 田口 掬汀
 土屋 香葉
 村羊生

第一四三三号 (明41・1・5)
 婦人と愛国 (上) 一四四号まで
 第一四五号 (明41・2・5)
 紀元節の歌 三首
 紀元節の歌 二首
 米国女子の職業 (上) 一四七号
 歌劇 清少納言 (上) 一四七号まで
 子供クラブ 耳きり兔
 第一四八号 (明41・3・5)
 米国の模範婦人
 第一四九号 (明41・3・20)
 近代の文芸 (上) 一五一号
 雛菊 (アンデルセン) 上 一五〇号
 第一五〇号 (明41・4・5)
 露西亞婦人氣質
 第一五一号 (明41・4・20)
 愛国心 伊太利フォガザ口原著 一五二号
 母子
 狒々王デヤン王 一五三、一五四号
 第一五二号 (明41・5・5)
 男女交際の心得
 第一五五号 (明41・6・20)
 西洋お伽 指太郎 (上) 一五六、一六〇号
 三宅雄二郎
 佐々木信綱
 大塚楠緒子
 佐藤 迷羊
 竹内 蘆笛
 木村 小舟
 津田 梅子
 島村 抱月
 あきら
 昇 曙夢
 小野 小峡
 服部 嘉香
 新渡戸稻造
 青郊

第一五八号 (明41・8・5)

家庭と武士道

松尾多勢子刀自の話

第一六一号 (明41・9・20)

黄金の髪

第一六四号 (明41・11・3)

菊五百

幾久の波奈(上) 一六五号

第一六八号 (明42・1・1)

詞叢 燕一、二

詞叢 風

小説 魔鏡 チエホフ作

小説 義烈の少女(一) 一七〇、一七二、一七八号

和歌

俳句

第一六九号 (明42・1・20)

小説 隠れたる徳 一七〇、一七四、一七五号

第一七二号 (明42・3・5)

詞叢 雀手鳥、薄のろ

和歌

第一七三号 (明42・3・20)

御伽小説 妖魔の森 一七四、一七六、一七七号

第一七九号 (明42・6・20)

小説 溜息

第一八一号 (明42・7・20)

お伽嘶とお伽会の旺盛

第一八五号 (明42・9・20)

童話 母の舌 一八六、一八九号

第一八九号 (明42・11・20)

恐ろしい朝鮮の一夜

第一九二号 (明43・1・1)

私の一日

お伽 獣の外套

第一九四号 (明43・2・5)

女歌人卷子

第一九五号 (明43・2・20)

梅の歌

花売少女

第一九六号 (明43・3・5)

夫婦の調和

小説 友愛

第二〇三号 (明43・6・20)

個人主義と家庭主義の調和

第二〇六号 (明43・8・5)

良妻賢母の好模範

第二二〇号 (明44・3・1)

奥村女史を懷ふ

愛国婦人会創立當時を懷ふ

巖谷 小波

巖谷小波 日野藤村合訳

日賀田逸子

跡見 花蹊

巖谷小波補 日野藤村訳

佐々木信綱

佐々木信綱

藤園主人義象

三宅 花圃

国木田治子

井上哲次郎

三宅 花圃

小笠原長生

下田 歌子

桃の花の句

第二二八号 (明44・7・1)

同情

第三三一号 (明44・8・15)

婦人思想の変遷

第三三六号 (明44・11・1)

菊の歌

第二四〇号 (明45・1・1)

日本と文学和歌 (上) 二四一、二四四号

第二四三号 (明45・2・15)

愛国婦人会会歌

第二四六号 (明45・4・1)

神武天皇の御製

第二四九号 (明45・5・15)

改めたき女の詞づかひ

第二五三号 (明45・7・15)

人の道

第二五八号 (大正元・10・1)

乃木大将とゴルドン將軍 (上)

第二五九号 (大1・10・15)

乃木夫人の殉死は無限の教訓

乃木大将夫人の逸話

第二六〇号 (大1・11・1)

救済事業雜感 (上) 二六一、二六二号

内藤 鳴雪

姉崎 正治

海老名弾正

佐々木信綱

芳賀 矢一

佐々木信綱作歌 小山作之助作曲

佐々木信綱

石黒 忠恵

南条 文雄

徳富蘆花談

跡見 花蹊

新山雅楽子

芳賀 矢一

第二六一号 (大1・11・15)

乃木大将夫人と山鹿素行の女訓

第二六五号 (大2・1・15)

パリで觀た芝居の一齣 (中) 二六六号

第二七七号 (大2・7・15)

母親と子供

第三〇三号 (大3・8・15)

女子教育の将来

第三〇六号 (大3・10・1)

軍国の婦人

第三〇八号 (大3・11・1)

家庭夜話 狼の子 (一)

三〇九、三一〇、三二三、三二四、三二五、三二七、三二九号

第三一二号 (大4・1・1)

いとし子 (二) 二十三回 (三三五号) で完

第三一二号 (大4・6・1)

古今婦人の勢力

第三三〇号 (大4・10・1)

学校以外 (上) 三三二号

第三三二号 (大4・10・15)

大正婦人の覚悟

第三三六号 (大5・1・1)

世界に於ける婦人の地位の進歩

足立 栗園

新渡戸稲造

鳩山 春子

菊池 大麓

下田 歌子

キップリング原作 三卷芳嶺訳

柳川 春葉

久米 邦武

巖谷 小波

下田 歌子

加藤 弘之

第三四一号 (大5・3・15)

精神の美と形体の美 (上) 三四二号

第三四五号 (大5・5・15)

日本の女は斯く育てねばならぬ

第三五二号 (大5・9・1)

家庭夜話 伊蘇普の話 (二) 三五四、三五六号

第三五五号 (大5・10・15)

博愛に国境なし

第三六〇号 (大6・1・1)

初春の歌 五首

第三六二号 (大6・2・1)

小説 牛酪 (大6・三三三号)

第三八四号 (大7・1・1)

愛国婦人会の発展

愛国婦人と正月

自覚と準備 (上) 三八五号

お伽譚 人の顔をした獣

第三八五号 (大7・1・15)

短編 義と愛 (上) 三八六、三八八号

第三八七号 (大7・2・15)

婦人の力 (上) 三八八号

小品 ひ、な祭

第三九〇号 (大7・4・1)

救済事業の根本的精神 (上) 三九一号

村上 專精

杉浦 重剛

美江子

志賀 重昂

佐々木信綱

前田 曙山

三宅雄二郎

新渡戸稻造

鳩山 春子

浦月

もと子

村上 專精

巖谷 小波

村上 專精

小説 鶴の姿 (上・中) 三九一号

注 初出は「北国新聞」(大3・1・1)。本紙の方が(下)の部分で初出より三三行分の追加がある。

第三九二号 (大7・5・1)

現代婦人は果して常識を欠くか

第三九八号 (大7・8・1)

お伽噺 焼豚裁判 (下) フムのロースト・ピッグより

短編小説 寒紅梅 (上) 三九九号

第四〇三号 (大7・10・15)

戦後における世界の形勢と女子高等教育

第四〇六号 (大7・12・1)

お伽譚 魔王の宝 四〇四、四〇五、四〇六号

戦後の思想問題

第四〇八号 (大8・1・1)

今後の愛国婦人

禍福の門

名婦と慈善 (二) 十一回(四三三号)で完

短編小説 凱旋の春 (上) 四〇九号

第四一〇号 (大8・2・1)

よき母よき妻

第四一二号 (大8・3・1)

家庭の廓清は愛国

第四一七号 (大8・5・15)

婦人も時勢を知る可し

泉 鏡花

新渡戸稻造

正枝子

田口 掬汀

成瀬 仁蔵

椿 まり子

新渡戸稻造

三宅 雪嶺

新渡戸稻造

下田 歌子

小栗 風葉

内藤 鳴雪

三宅雄二郎

三宅雄二郎

第四二二号 (大8・8・1)

物価騰貴に対して (上) 四二三号

三宅 雪嶺

第四二七号 (大8・10・15)

婦人の世界観

三宅 雪嶺

誤られた現代の童話と音楽 (上) 四二八号

竹久 夢二

作歌の態度 (上) 四一九号

尾山篤二郎

第四三二号 (大9・1・1)

日本婦人の大任

三宅 雪嶺

日本の童話と国民性

巖谷 小波

誤られたる母の愛 四三三号

鳩山 春子

第四三七号 (大9・3・15)

四月一日より毎月三回発行の予告

第四四一号 (大9・5・1)

歴史上より観たる家の觀念 (上) 四四二、四四三号

芳賀 矢一

第四五一号 (大9・8・11)

マールリンクの幸福論 四五三号

栗原 古城

第四五三号 (大9・9・1)

短編小説 気まぐれハンス (上) 四五四号

第四五四号 (大9・9・11)

武者小路実篤氏作『その妹』梗概 (有楽座上演)

第四五五号 (大9・9・21)

短編小説 天使

コラ キャロル

第四五六号 (大9・10・1)

文化生活の物的基礎

森本 厚吉

第四五八号 (大9・10・21)

童話 競馬

河井 醉茗

短編小説 独

百合子

第四五九号 (大9・11・1)

黄色い薔薇と白い薔薇 (梗概)

ウエルデンブルフ氏作
多賀詩訳

四六〇、四六一、四六二、四六三、四六四号

第四六〇号 (大9・11・11)

オイケン博士の「世界史上に於ける独逸魂の意義」 (梗概)

多賀詩訳

第四六三・四合併号 (大9・12・21)

童話 不思議の花

百合子